

ド・ラ・メアの詩の世界——イギリスの妖精——

日時 2020年12月5日

場所 うつのみや妖精ミュージアム

講師 井村君江（妖精ミュージアム名誉館長）

(1) ウォルター・ド・ラ・メア Walter de la Mare (1873-1956)

ケント州チャルトン生れ。(母方詩人ロバート・ブラウニングの血ひく)。

詩人、小説家。ロンドンのポール・コーラス学校卒業、英米石油会社〈18年〉。

詩人として王立奨励金授与、76歳没。

Song of Childhood(『幼時のうた』) 1902

Peacock Pie(『孔雀パイ』) 1913

O, Lovely England(『ああ、麗しの英国』) 1950

Henry Broken(『ヘンリー・ブロッケン』) 1904

Three Mullgar Monkies(『三匹の猿王子の冒険』) 1910

Down Adown Derry(『ダン・アダン・デリー』) 1922

三部「妖精たち」「魔女、魔術」「夢の世界」

* Invisible She「見知らぬ人」「さ迷う人」「耳を傾ける人」

部屋、庭園、廃墟、川、夕暮れ、月、星、夢(人間と交流)

(2) 日本への伝播

西条八十『白孔雀』(大正9年) 翻訳

江戸川乱歩「夜の夢こそ眞実なれ」

佐藤春夫『病める薔薇』大正3年

(3) イギリスの妖精

* 中世ロマンス「薔薇物語」(チョーサー訳)

アプレウス「黄金のロバ」

プルタルコス「英雄伝」

(ギリシヤ神話、ケルト神話)

* チョーサー(1345-1400)

『カンタベリー物語』(「バスの女房」「貿易商人」)

* W シェイクスピア(1564-1616)

『夏の夜の夢』『テンペスト』

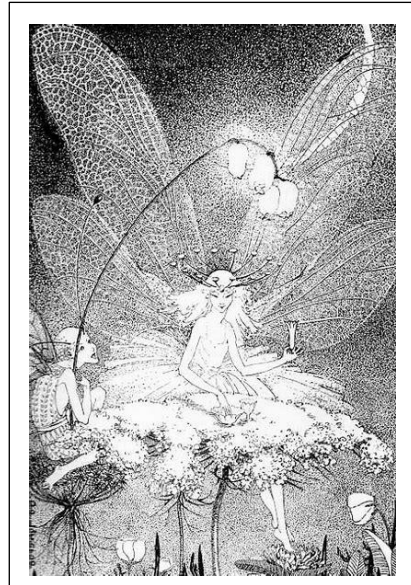
パラケルスス(15-16世紀) 医師、化学者、錬金術師、神秘思想家。

地(ノーム)、水(ウンディーネ)、火(サラマンダー)、風(シルフ)

* 19、20世紀の詩人ブレイク、キーツ、シェレー、ワーズワース、コールリッジ、ド・ラ・メア

☆ 妖精の「大きさ」(小さい)

妖精の「羽根」(ヨーロッパからの影響)



ト・ロシー・ランスロップ 画